



静岡県中小企業家同友会

2016

同友しずおか

6

VOL.451

題字：遠藤 在氏 榛原支部



私の逸品
一生使えるオーダー家具、建具
富士工芸
詳細はWEBで!
静岡同友会

第43回 静岡県中小企業家同友会定時総会 記念講演

特集

「揺るぎない経営指針で、社員と共に地域で生きる」

(株)八木澤商店・岩手同友会 河野 通洋 氏

会員訪問記

宮澤 学氏 宮澤電池産業(株)・静岡支部
中川 真樹氏 デトックスサロンMAKI・浜松支部

シリーズ

委員会・部会通信 宮園 義実氏 (有)アグリ開発・食と農研究会会長

その他
主な内容

榛原・志太合同例会、支部だより、新入会員・名義変更紹介、友達の輪、イントロin同友会

平成28年度
重点課題

- ① 経営指針の成文化率を高め、人を生かす経営の実践で、同友会型企业づくりを進めます。
- ② 中小企業憲章の精神をいかした中小企業振興基本条例の制定をめざします。
- ③ 早期に1200名会員を達成し、地域の活力を生み出す活動を推進します。

発行所：静岡県中小企業家同友会 doyu@szdoyu.gr.jp / 編集者：県広報情報化委員会

〒420-0857 静岡市葵区御幸町8 静岡三菱ビル6階 TEL:054-253-6130(代表) FAX:054-255-7620 http://www.szdoyu.gr.jp

静岡県中小企業家同友会 第43回定時総会

「元気な企業と地域をつくるための運動を拡げよう」

～同友会運動を前進させ、静岡同友会を強くそして大きく～



遠藤一秀氏による挨拶



祝辞を述べる大石勝彦局長

5月13日（金）クーポール会館にて第43回定時総会が開催されました。出席者93名、ご来賓に大石勝彦氏（静岡県経済産業部商工業局長）、伊東暁人氏（静岡大学副学長）、山本義彦氏（静岡大学名誉教授・静岡同友会顧問）をお招きしました。また、記念講演として「揺るぎない経営指針で、社員と共に地域で生きる」を演題に、岩手同友会の河野通洋氏（株）八木澤商店）にご講演頂きました。

初めに遠藤一秀会長（遠藤科学株）より1000名を超える会員数で総会を迎えたと、感謝の言葉が述べられました。そして「景気は緩やかに回復していると言われますが、横ばいか足踏み状態というのが我々の実感です。本総会では2016年度の方針を決めるとともに、地域と共に生きる同友会活動のキックオフとなります。強い決意を持って、力強くスタートさせましょう。」と挨拶がありました。大石勝彦氏からは「景況の先行きが予断を許さない状況であるなか、静岡県ではファルマバレー構想など多極の産業を生み出すべく働きかけている。また、条例制定に向けて講習会も開催する。県内中小企業家の皆さんの活躍・参画に期待する」、伊東氏からは、「地方の問題・課題を解決できる人材を輩出する事が、大学を含めこれからの教育機関に求められる責務。また、人口流出を減らし県内就職を増やすためにも、産学連携を強化していきたい」とのご祝辞を賜りました。

また、中同協会長の鋤柄修氏から「労使見解発表から40周年の節目の年を迎えた。緊急の時ほど経営指針に立ち返り、全社一丸で対応することが求められる。中小企業が主役となり、新たな展望を切り拓く運動を、静岡同友会の創意あふれる取り組みで大きく広げていってほしい」との祝電を頂戴しました。

本年度の重点課題は3点です。①経営指針の成文化率を高め、人を生かす経営の実践で、同友会型企業づくりを進めます。②中小企業憲章の精神をいかした中小企業振興基本条例の制定をめざします。③早期に1200名会員を達成し、地域の活力を生み出す活動を推進します。これらの重点課題を羅針盤と位置づけ、企業づくりと同友会運動を一体のものとして前進させていくことが確認されました。社員と共に経営指針を実践すると共に、地域づくりの主体者となり、雇用創出や仕事づくりをしていくことで、多様化する経営課題を乗り越えていくことが求められます。

なお、本総会では、正副代表理事、支部長、専門委員長、事務局で構成されたメンバーにより10カ月をかけて論議し練り上げた「2020年ビジョン」が発表されました。①指針づくりを通じて、多くの「21世紀型企業」を創出する一企業づくり。②地域に寄り添い、中小企業が主役の経営環境づくりを推進する一地域づくり。③信頼される経営者団体として活力ある1500名の静岡同友会を実現する一同友会づくりを3つの柱として、同友会運動の前進を図っていくことが確認されました。



平成28年度 理事の皆様

「揺るぎない経営指針で、社員と共に地域で生きる」



講師 河野 通洋氏 (株)八木澤商店 代表取締役・岩手同友会)

株式会社八木澤商店

創業：1807年／設立：1960年1月

事業内容：食品製造業（しょうゆ、味噌、漬物、その他しょうゆ加工品）

経営理念：

- 一、私たちは、食を通して感謝する心を広げ、地域の自然と共にすこやかに暮らせる社会を作ります。
- 一、私たちは、和の心を持って共に学び、誠実で優しい食の匠を目指します。
- 一、私たちは、醬の醸造文化を進化させ伝承することで命の環を未来につないでゆきます。

「指針を創る会」をきっかけに得た気付き

厳しい経営状況の会社に後継者として戻った私は、営業・企画に奔走したほか、抜本的な再建が必要と、書籍を元に「指針書」を作成。今思えばこれは「命令指示書」でしたが、数字は改善しました。社内会議も開きましたが、それは社員の「できない」を問い質す場でした。「営利集団」を建前に人間関係を否定する当時の私は、何か勘違いをしていました。

そんな頃に誘いを受け、宮城同友会へ入会。「指針を創る会」にも参加したのですが、私は自作の指針書を指摘してもらおうというスタンスでした。しかし始めてみると一向に指摘してもらえず、同期が自己変革の実感に涙するのを横目で見ればかりのまま5ヶ月が経過。「このままではまずい」と同期に助言を求めると「数字の話しかしない社長の下で働く社員は地獄だ」と叱咤されました。その帰り、初めて苦悩し、形だけの理念も腑に落ちなくなります。指針について初めて社員と勉強会を開催したところ「良いのがありました!」と社員が持ってきたのは、稲森和夫氏が京セラ時代に掲げた経営理念でした。

岩手同友会気仙支部の発足

新たな指針を作成後、会社を良くしたいと思い、新卒採用をはじめ様々なことに取り組みました。その中で、宮城同友会会員に会社で報告してもらったり、社員や仲間を同友会につれて行ったりするに連れ「同友会っていいな」という声が増えていきました。ここから、陸前高田で支部立ち上げの機運が高まりました。「行政が展望を示せない地域で同友会は成り立たない」との声には「自分たちで展望を示せばいい」と反論し、苦労の末に岩手同友会気仙支部を立ち上げました。スローガンは「一社もつぶさない」。指針成文化と一社毎年一人採用を目標に掲げ、年代の垣根無く関わり合いました。

<参加者感想>

社長であるお父様が倒れたことをきっかけに、在学中のアメリカから帰国し会社へ戻った河野氏。その後は独学で「経営理念」「五カ年計画」を作り、業績を回復させましたが、「オレがオレが」と血気盛んな20代であったこともあり、社員との距離は開き、不信任感を拭えなかったといいます。そんな中で「経営指針を創る会」へ入会。半年の学びの中で、本当の経営理念の大切さに気付き、そこから社員との関係も徐々に改善していきました。また、苦労して気仙支部を立ち上げ、「一社も潰すな」をスローガンに邁進されました。「地域の中小企業が地域で雇用することで、人口減を止めようと考えた」

東日本大震災の中、地域一丸で「一社もつぶすな」

その後の2011年3月11日、東日本大震災が起きました。地域の人口の7割強が犠牲になり、建物の8割が全壊。地域の会社は10%強しか残らず、当社も全壊し津波に吞まれました。私は無事だった会員企業の社屋の一部を借りて事務所とし、全国からの支援物資を同友会で被災者に配布。この時から、気仙支部の活動＝倒産防止の活動を再開しました。まず県内全ての銀行に、自動引落とし停止の確約をもらいました。また、雇用を維持し再建する道を選び、雇用調整助成金を申請しました。危機的状況において、民間は公に近づきます。そのとき、公の心ある人は、力になってくれます。行政、金融、同友会、企業が一丸となって「一社もつぶすな」と取り組み、様々な人を巻き込みながら、再建をしていきました。

私たち地域中小企業が担う役割

陸前高田は震災で人口が15%減少しましたが、そこから新しい価値を生み出そうとする企業が増えました。求人倍率は2倍に近づき、出生率も1.76になりました。「地方消滅」の危機感が煽られることの多い昨今、地域中小企業の担う役割は大きいです。人口減少を「一人あたりの利用できる地域資源が増える」と捉え、自然増する資源の質を磨くのです。中小企業の役割とは、地域資源の質を高め価値を付加すること、そして、住民と一緒に地域の未来を考えることです。その中で経営者は、社員を私物化してはなりません。大切なのは人間関係であり、一歩引く姿勢を持つことです。

最後に、「一社もつぶすな」は震災前から掲げていたスローガンです。それを果たすため、私たちは互いを訪問して決算書を見せ合い、本当の意味で支え合ってきました。保身の無い言葉は、人を動かします。現状認識が出来なくなったとき、会社はつぶれます。経営者が会社を私物化したとき、会社はつぶれます。一社もつぶさないための活動を、私たちは行っているのです。

との言葉は、深くとても印象的でした。

その後、東日本大震災で被災し、会社も流され、社員の半数以上が家を失いました。それでも「この町を無くしてなるものか」と、社員・仲間と共に支援物資を200ヶ所以上に配り、地域や役人をも巻き込んで再建した、との事です。また500名の雇用を目指し、復興まちづくり会社「なつかしい未来創造(株)」を設立。現在は40社あまりを起業されています。

「会社経営を良くすることで地域を良くする」河野氏の地域愛に溢れたエネルギーなお話に、胸が熱くなる記念講演でした。

荒木 慎吾氏 (スマートブルー(株)・静岡支部)

「震災から5年、地域の未来を創る中小企業家の挑戦」

講師：高橋 美加子氏（㈱北洋舎クリーニング 代表取締役・福島同友会 相双地区直前会長理事）

5月19日（木） さざんか 参加77名



高橋 美加子氏

（㈱北洋舎クリーニングは1948年5月に屋号を「北洋舎」として創業、1959年4月に株式会社設立。そして2002年4月、高橋美加子氏が代表取締役に

就任しました。現在社員数は25名、南相馬市と相馬市に7店舗のクリーニング店を展開しています。高橋氏は5年前の東日本大震災に遭い、地震や津波の恐ろしさ、そして原発震災の怖さを、身をもって感じました。

震災当時、3月11日に激しい揺れがありました。そのときに建物被害はなかったようですが、その後しばらくしてから、大津波で人が流されたことを知りました。さらに12日になると「原発が危ない」との情報が流れ、間もなく建屋で水素爆発。高橋氏は従業員を帰した後、15日午前1時頃、何も持たずに福島市内へ避難します。1週間後に戻り、店を開けましたが、地域住民の多くはガソリンが手に入らず食料も少なく、復

旧作業もままならない状態でした。

地域の情報が極端に流れなくなった中、高橋氏は「南相馬からの便り」としてホームページにせっぱつまった状況を掲載し、発信しました。しかし、当時の行政の復興支援や助成政策は過去の災害に倣った基準のため、その多くは未曾有の大災害という現実にとぐわらないものでした。そんな中、地域住民を守ったのは中小企業であり、同友会の会員でした。震災で何もなくなった中、地元の中小企業が食料確保や道路の復旧で地域を守ったのです。高橋氏自身も、自社の存在価値をつくづく実感したそうです。そんな体験をもとに、地域への関わり、危機管理の大切さ、行政との協働についてのご講演を頂きました。

小澤 慶司氏（㈱小澤工務店・榛原支部）



当日は西原茂樹牧之原市長もご参加

参加者感想

2011年3月11日の東日本大震災は非常に残酷であり、残念で仕方ありません。同じ日本で生活していて、他人事ではないと更に実感しました。テレビ、マスコミ、雑誌等の報道で見聞きはしていましたが、今回、高橋社長の講演を聞きDVDを見て、こんな事が実際にあったのか、と驚きました。自分の記憶と同じですが、忘れかけていたのが事実です。

震災から5年が経ちました。時の経過とともに日常を取り戻すことができている人も多い反面、まだまだ困難な状況の中、復興への長い道ゆりを覚悟しながらも必死に頑張っている人がたくさんいると思います。政府、自衛隊、消防隊、また支援者の力が必要なのだと思います。学校や病院も困難な状況となり、お年寄りや幼少の子どもは特に大変だったことでしょう。皆さんが町づくりして一歩ずつ作りあげて、より一層強い絆ができたことでしょう。

先日も熊本で大きな震災があり、残念で仕方ありません。もう少し早く避難していれば、少し遅く避難していれば助かったという話も聞かれます。

高橋社長も事業がありますが、これからも地域づくり・人づくり・町づくりに頑張って下さい。応援しています。 増田 武氏（五大産業(有)・榛原支部）

東日本大震災から5年、震災当時何が起き、どう対応したかを、今回の合同例会で高橋美加子氏から聞くことができました。震災後、想像を超えた事ばかり起き、2～3日で戻ってくるつもりで家を出たが帰れなくなったこと、同じ被災者なのに、市役所に勤めているだけで市民から「対応が悪い」と怒鳴られている人がいるということ、人間を汚染物質扱いしなくてはならないという現実など、現地に行っていない私が知らなかった事を、沢山聞かせてもらいました。そのような中で高橋氏が気付いたのは「何もかも無くなると、最後に残るのは、自分の深いところにある思い」ということでした。そして、それまでの大手企業との競争が馬鹿らしく感じたそうです。さらに、人はどん底になると、助け合うことを知ります。高橋氏は「足りない事を言うのではなく、出来る事をしよう」と頑張ったそうですが、その時の心の支えになったのが、同友会3つの目的でした。

静岡県も、近い将来東海地震が起きる、と言われていています。発災したとき、今まで犠牲になった人々の為にも、絶対に生き延びなければいけないと、高橋氏の話聞いて思いました。

柴田 和哉氏（ヤマサン・志太支部）

支部だより

富士宮例会

本気で理念と社員と向き合ってしまった

5月6日(金) 志ほ川 参加44名



阿久澤 太郎氏

(株)東海製蠟の阿久澤太郎氏が「人を生かす経営～生きた証を築くために～」と題し報告。労使見解の重要性に触れ、自社での実践を話しました。

同社は、創業140年の蠟燭メーカー。従来の日用品雑貨の流通や市場が効率化した為、価格競争を避け、仏具店の開拓と新商品の開発で、新市場創造を進めてきました。阿久澤氏は、米国の大学院で学んだ後、金融会社に就職。帰国後は自社に入社し、数値管理に偏る経営を行いました。ある繁忙期、製造部社員に「効率を優先してくれ」と告げたところ、「品質に満足できない製品は出荷できない。経営理念に背くことはできない」と言われ、自身の経営理念に対する理解が表面的だったことを痛感。本気で理念と社員に向き合う決意をしました。最近では、営業部社員に会社の将来について尋ねると「自社製品の普及により、幸せな人を増やしたい。自分の生活の為でもあるが、利他の気持ちが強い」と返ってきました。腑に落ちれば、自分も人も変わる。売上の為の仕事ではなく、作る人も、売る人も、買う人も幸せになる為の仕事でなければならない。「製品を介し、日本の美しい心が伝承される」これが自社の役目だと感じている。阿久澤氏のことばかり、企業の実存意義、仕事の意味を感じる、素晴らしい報告でした。

金子 佳正氏 (金子石材滝戸・富士宮支部)

沼津例会

良い会社、良い経営者になるためには…

5月18日(水) プラサヴェルデ 参加58名

5月例会はグループ長実習として、参加者の皆さんには実践することを意識して「行動」してもらい、合わせて3回のグループ討論を行いました。

沼津支部例会企画委員会で作成した2つの例題についてそれぞれグループ討論を行い、その後の比較検討と「なぜグループ長が重要なのか」をグループ討論し、グループ発表を行いました。グループ長を経験した人数は21名(3回×7グループ)となったので、グループ発表は時間の都合上、アットランダムで行いました。「バズセッションを通して、意見の違いを感じた」等の声が聞かれました。

この例会で、昨年度3月例会で報告したJames Molloy氏(エルスリー(株)・三島支部)の「すべての始まりWhyのチカラ」という一節を思い出しました。今回はまさに「ストレッチゾーン」、未体験ゾーンでした。参加した皆さんは、どのように感じたでしょうか?「Why グループ長?」もちろん、グループ長ができるようになるために入会した人は、一人もいないはず。この例会での経験をどのように活かして行動するかが、良い経営者への歩みではないでしょうか。

笹沼 幸雄氏 (㈱イーコン・沼津支部)

浜松例会

経営指針書づくりでわが社は変わる!! (現在進行形)

5月18日(水) (株)エーグッド会議室 参加12名



須山 由佳子氏

今期の浜松支部は「経営指針に関連した学びを中心とした例会で自社力UP」を活動方針の一つに掲げています。その第一回目では「経営指針を創る会」卒業生、須山由佳子氏(㈲キャリア・アップ)の報告を通じ、学びました。

会社が迷子になる三原則は「現在地がわからない・目的地がわからない・目的地への地図がない」。これでは社員はもちろん、自分さえも道に迷うのは当然です。経営指針書は、現在地や目的地を明確にし、皆で歩むための地図だと言えましょう。

須山氏は、経営指針書に基づく経営を通じ「理と情の管理バランス」と「理念だけではメシは食えないが人は考え方に共感してついてくる」の2つを実感したそうです。地図をもとに論理的に説明したとしても相手の気持ちを汲み取らなければ、組織の大きな力は生み出せません。社員の心を理解した上で自らの想いを伝えるからこそ共感が生まれ、目的の場所に力強く向かえるのです。

指針書作成後、会社は売上が前年比2倍になるなど様々なメリットが訪れました。しかしそれは、自分を見つめ直し、社員と真摯に向き合ったことが社員達の心を掴み、会社力強化へと繋がった結果でしょう。

バズセッションでは全ての方が、指針書は必要だと発言。経営者の信念・思いを成文化し客観的に深められるという点で、経営指針書は作成する価値があると強く感じました。

杉山 尚也氏 (㈱ハーモニー・浜松支部)

三島例会

多様性の理解に必要なのは「対話」

5月23日(月) (株)IPシンフォニー静岡支社 参加28名

2015年11月に入会した天野恵久子氏(㈱IPシンフォニー・静岡支社)が、支社長代理と共に報告しました。同社は「知と和の創造」を理念に掲げ、人・地域・社会・企業等の知的財産を活かす仕事をされています。なかでも注力しているのが「シェアーズ」という取り組み。「ママの力を社会に」という通り、出産を機に職場から離れたしまったママたちの力を社会に生かすことで、新しいはたらき方を創造しようという取り組みです。

ママさん雇用に限らず、働き方、部署や勤務時間など、企業側が工夫することが才能ある人材の発掘や今いる方の能力を引き出すことにつながると、今回の報告から感じました。

「多様性の理解に向けて」というテーマで行われたバズセッションでは、社員一人ひとりの能力や個性を理解するためにはしっかりと対話が必要という意見や、まずは最小の組織である「家庭」での会話を心掛けることが大切だという意見が挙がりました。

久保 修平氏 (㈱和楽・三島支部)

伊東例会

お客様の立場で考え信頼を勝ち取る

5月19日(木) ひぐらし会館 参加13名



渡邊 啓太氏

私の学生時代からの友人でもある渡邊啓太氏（ハッピーライフ）が、30代で起業した当時の苦労やお客様に喜ばれたときの達成感、今後の目標を語りました。

起業当初は営業が取れず、一時期はお客様のお宅に足が向かなかったことも。その時に仕事の先輩や仲間助けられ、事業継続の上での仲間の大切さと、一人では仕事ができないということを実感したそうです。私自身に置き換えても、同業者はライバルであると同時に、仕事の情報や技術を交換し自分の仕事に生かす大切な仲間だと再認識しました。また、あるお客様に新しい保険を提案する際、それまで加入していた保険を徹底分析し、今後の保険と比較してお客様の立場で親身に提案したところ、大変喜ばれたとのこと。渡邊氏がかつて、病気が理由で将来の蓄えや保険のことで不安に駆られたことがありました。この経験から自分に置き換え接客したことがお客様からの信頼につながり、仕事のやりがいを強く感じたそうです。業種は違えど、その時々のお客様ニーズに応えるのがプロの仕事だと実感しました。今後は法人化し従業員を雇い、保険を通じて色々なお客様を手助けし事業を拡大していきたい、と熱く語っていました。「お客様から信頼を勝ち取るからこそ事業拡大の一番の近道で

は」と思い、私自身の仕事に対する姿勢を考えさせられました。友人であり同じ経営者である渡邊氏をこれからも応援し、共に成長していきたいと思えます。

鈴木 将大氏（㈲東亜電気工業・伊東支部）

中遠例会

必要とされるからこそ会社は存在できる

5月19日(木) ワークピア磐田 参加12名



望月 宣典氏

今年度最初の報告者は、望月宣典氏（清水クレジット㈱・静岡支部）。題して「経営発展のための羅針盤『経営指針』のイ・ロ・ハ」。さすがは経営指針を創る会会長です。

氏は「理念で飯は食えない」は間違いだと断言します。経営不振のとき、シングルマザーの雇用を守るために自ら身を引いた社員のエピソードからは、消費者金融というネガティブなイメージを持たれることの多い業界にあって、氏が元々従業員を大切に考えていたことが窺えます。会社は雇用を守り雇用を作り人を育てるもの、という信念があったからこそ、氏は経営指針策定の必要性に迫られたのでしょうか。「うちの社員は日本一」と言い切る氏の姿勢に感銘を受けました。

他の会員の助言で事業者向けローンに軸足を移してから、経営が好転してきたとのこと。必要とされているからこそ会社は存在できるのだという言葉が心に残った報告でした。

鈴木 弘之氏（税理士法人 あい会計・中遠支部）

委員会・部会通信

第2回

静 岡県は温暖な気候、変化に富んだ地形、駿河湾の豊かな漁場の「恵まれた地域資源」を背景として439品目もの多彩で高品質な農水産物を生み出しています。加えて農産物の6次化などに必要な「高度で安心・安全な食品加工技術」を地域の中小企業が有し、消費者の食の安心・安全に対する不信・不安感払拭にも貢献しています。

医 食同源、食べることは命の源であり、健康で豊かに過ごす為の必須の条件です。「食・農・健康・長寿・自然・環境」それらは全て関連しているテーマであり、1000名超の同友会会員の中でも、生業として「食と農」関連の会社も多いと思います。静岡県同友会として「食と農研究会」を通じ、関連ある会員や食や健康に関心のある方に情報を発信できるよう、具体的事業計画を立て今年度活動してまいります。

食と農研究会

今 年度研究会の基本方針は「届けよう！静岡の食の魅力！つなげよう！食と農のネットワーク！～食と農を通じて地方創生へのチャレンジ～」をスローガンに、①“おいしい”がいっぱいの静岡の食を「知る」「体験」する企画（地域資源の再確認）②静岡県内の農水産物を生み出す農業・水産・林業のプロと交流、視察③食と農研究会会員のミニ「我が経営を語る」で支部を越えての相互の学び合い④「食と農」をしっかりと学ぼう！講演会企画（TPP、食品表示、機能性野菜等検討中）これらの活動を通して支部を越えての会員間の交流、情報交換を促し、お互いが切磋琢磨、研鑽しあい信頼関係を築いていくことを目標とします。

このことが地域を担う我々中小企業の責務であり、活発に会員企業が活動することによって国や県が目標に掲げる「地方創生」へもつながるものと信じています。

宮園 義実氏（㈲アグリ開発・食と農研究会会長）

お問い合わせ・参加申し込みは、同友会事務局まで！ TEL：054-253-6130

創業70年の老舗企業を引き継ぐ青年社長に学ぶ

宮澤電池産業(株)

代表取締役 宮澤 学氏 (静岡支部)

事業内容：非常用電源設備の販売・保守・点検

設立：1979年2月

社員数：正規14名

入会：2013年2月

所在地：静岡市葵区竜南1-10-28

TEL：054-247-1211

社員が仕事を幅広く担当、レスポンスの良さが強み

宮澤電池産業(株)は、今年で創業70年になる老舗の電気機器販売・メンテナンス会社です。非常用電源設備の販売・保守に特化し、役所やショッピングセンター等の大型施設が主要顧客です。創業当時は、宮澤氏の祖父が沼津で船舶用の電源の販売・メンテナンスを行っていました。やがて商売は大きくなり、宮澤氏の父の代になって静岡市にも拠点を置くようになり、現在に至ります。14名いる社員のほとんどが営業と技術・サービスを兼務でき、そのレスポンスの良さが、多くの顧客から評価されています。

順調に事業を引き継いできた三代目社長

宮澤氏はメーカーで社員として勉強を重ねた後、宮澤電池産業(株)に入社。その頃は、静岡に拠点を移し事業を大きくしてきた2代目社長に、社員はものを言い

にくい雰囲気がありました。そこで宮澤氏は、社長と社員のパイプ役を果たします。そして2012年5月、社長に就任。今も変わらず、良いことも悪いことも社員とはコミュニケーションがとれているようです。会社の今後の課題は、年輩の技術者達と若い技術者達の引き継ぎ、増えてきた仕事への対応を挙げていました。将来は、仕事の量は増やさず利益を増やし、従業員が休める会社にしていきたい、とのことでした。



藤本 浩氏

宮澤 学氏

同友会活動でも支部委員会で新たな試みを

宮澤氏は、静岡支部オリエンテーション委員長を務めています。新入会員のフォローがメインの委員会ですが、支部では新しい試みとなるため、委員会のあり方を探るところから始めています。新入会員が積極的に会活動に参加できるように、居場所を作るのが大切とのこと。宮澤氏も新入会員だった頃、ふと目に留まったワインの会に参加してみたのが、同友会に出席するきっかけでした。例会でも懇親会でも、なんでも良いから新入会員の居場所を作るためにフォローしていきたい、と語っていました。

取材・記事：藤本 浩氏 (プリントバリュー(株)・静岡支部)

エステサロンの新しい提案「あなたの居場所創り」

デトックスサロンMAKI

代表 中川 真樹氏 (浜松支部)

事業内容：東洋医学・デトックス専門サロン

設立：2009年10月

社員数：パート1名

入会：2016年2月

所在地：浜松市中区上島5-4-48 2F

URL：http://detox-maki.com

TEL：053-472-3683

長い経験に裏打ちされた技術を持つデトックスサロン

中川真樹氏の経営する東洋医学・専門サロン「MAKI」では、東洋医学に基づく「排毒リンパドレナージュ」という方法で全身に溜まった老廃物を外に出す事により、ダイエットはもちろん、不妊改善や精神的なケアにも有効とされる施術を行っています。氏は、横浜・東京で7年間「本物の美と健康とは何か?」を勉強し、4年間店長として勤務。また、タレント兼モデルである富田リカ氏の専属エステティシャンとしても成果を上げた後、2009年10月に開業しました。

予約でいっぱいのお秘密

サロンは、いつもお客様の予約がいっぱいです。実

績と経験に裏打ちされた高い技術があるのはもちろんですが、それよりも中川氏が大事にしているのは「居場所創り」とのこと。お客様は様々な悩みや問題を抱えて来店しますが、その多くは、家族など近すぎる存在だからこそ相談できず抱え込んでいるそうです。その声に耳を傾けながら施術していくと、お客様は心身ともにリラックスし、自ら変わっていくのです。「サロンはお客様が理想の自分で居られる空間＝自分の居場所であり、そのためにはお客様に寄り添いながら一緒に歩いていく姿勢が大切」と中川氏は語ります。氏が修行を始めた17歳のときに先輩から学んだ「自分がお客様に与えられる喜びとそれに感謝できることへの喜び」の言葉が、お客様と共に歩む姿勢を形作ってきたのでしょうか。



中川 真樹氏

会員交流のなかで「毎日が学び」

同友会に入会してからのことを尋ねると「毎日が学びで、これが面白い」とのこと。だからこそスタッフにも自分の技術や想いを伝えていきたい、と今後の抱負を語ってくれました。様々な展開を見据えるエネルギーな中川氏。その活躍に、今後も期待大です。

記事作成：杉山 尚也氏 (株)ハーモニー・浜松支部)

新会員のご紹介 (敬称略) 会員数1025名

氏名	社名・事業	所属支部	紹介者
山田 健	山田庭園 庭職(植木手入れ、造園工事業)	御殿場	根上 武久
大川 美代子	(有)フラワーショップ ミュウ 花・植木小売業(ギフト用生花・園芸、祝用生花、葬儀用供花、パーティ装飾花など 生花販売)	静岡	福井 久幸
桐林 秀行	桐林秀行税理士事務所 税理士業	静岡	井上 斉
北井 寛己	(株)キタイ電気 電気設備業(電気工事)	中遠	生倉 滋人
江間 省豪	江間企画 情報サービス業(オーダーメイドのデータベース作成、パソコンメンテナンス、パソコン販売)	浜松	井村 圭吾
永田 晃士	(株)ウィリングネス リサイクル業(リサイクルショップ「浜松鑑定団」の業務委託運営)	浜松	杉山 尚也
服部 勝也	HAIR DESIGNING BIGUP (ビゴップ) 美容業(カット、パーマ、カラーセット、化粧品・シャンプー取扱い)	浜松	阪西 敏治

5月号同友しずおかで、藤井 陽介氏の情報を誤って掲載しておりました。お詫びと共に、改めて掲載致します。大変申し訳ございませんでした。

藤井 陽介	(有)藤井建築 建築業(一般住宅建設、増改築・リフォーム、新築)	中遠	大橋 徳久
-------	-------------------------------------	----	-------

■名義変更による新名義人 (敬称略)

氏名	社名	所属支部	旧名義人
岩淵 貴司	(株)KTSオペレーション THE GOTEMBAKAN	御殿場	川田 武寿
河村 智	マツヤデンキ (株)山崎商会	榛原	山崎 敦久

※新会員の写真はe.doyu「ユーザ名簿」にアップします。e.doyuからのご確認をお願い致します。

友達の輪 第27回

坂上洋一さん(さかがみ財産クリニック(株)・静岡支部)からご指名をいただきました、静岡支部の大橋知文です。坂上さんとは「第8期経営指針を創る会」で同期でしたが、共に学ぶというより、色々教えていただき、感謝しております。

経営指針を創っていく過程において、最初に投げかけられた質問が「何のために経営するか?」でした。今でもこの問いの答えが曖昧になるときがあります。同友会では、異業種交流委員会や戦略BASiCS勉強会に入って、会員の経営の裏話を聞く機会をたくさん頂いています。創業者、2代目、3代目と置かれた立場で、経営スタイルも違いますが、みなさんの意見は大変に参考になります。静岡支部だけでも200名の会員、静岡県下では1,000名を越す会員がいて、職種は様々ですが、経営者の根底にある悩みはほぼ同じで、その同じ仲間意識が持てると、同友会は家庭や会社より楽しい所となるのではないのでしょうか。弊社におきまして、今年53周年を迎え、2代目社長として20年経ちましたが、この先どのように舵取りをしてどこへたどり着くのか、後継者のいない分、同友会の諸先輩方にヒントを頂き、後は想定外の良いことが起こってくれば、と願うばかりです。

さて、今回は、異業種交流委員会で、Webとは何ぞやという講義もしてもらいました、デザイン工房眠猫堂の西子清英さん(静岡支部)です。西子さん、どうぞよろしく願います。大橋 知文氏 (株)静岡テレビセンター・静岡支部



大橋 知文氏

同友会イントロセミナー IN 同友会

5月24日(火) 参加24名

吉川真実氏(保坂シール印刷(株)・静岡支部)が、経営者として今まで取り組んできたことを報告しました。先代の社長から会社を引き継ぐにあたって色々な課題にぶつかり、同友会に入会。12年前「経営指針を創る会」に入会し経営者としての考えを学び、自社の経営に取り組んできました。しかしまた新たな課題にぶつかり、昨年再度創る会で理念を作り直し、これからの経営に前向きに取り組んでいこうと決意したという報告でした。今回オブザーバーは5名。そのうちの3名はその場で入会を決めるということで、大成功のイントロセミナーとなりました。

宮田 博文氏 (有)ミヤタ印刷・静岡支部



同友会 三つの 目的

1. 同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。
2. 同友会は、中小企業が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。
3. 同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく、社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。